



題 字
初代会長 松野 盛吉
定 価 1部 48円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail: ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

の皆様に謹んでごあいさつを申し上げます。
消防職・団員及び消防関係者の皆様には、日ごろから地域住民の生命・財産をあらゆる災害から守るため、日夜献身的に活動され、様々な努力をなされておりますことに心から感謝と敬意を表します。
昨年を振り返ってみますと、六月三〇日には横手市(秋田ふるさと村)において「第七二回秋田県消防大会」を開催しました。
県内各地域から五〇〇名を越える消防職員、団員が参加、今回で一回目となる意見発表会では、各支部から選出された消防団歴三二年のベテランから五年の団員まで、それぞれこれからの消防活動に対する提言



年頭の
ごあいさつ
一般財団法人秋田県消防協会
会長 中田 潤



平成三十一年の新春を迎え、県民の皆様並びに消防職・団員はじめ消防関係者の皆様に謹んでごあいさつを申し上げます。

今後の奮闘に期待しております。
なお、本年一月中旬、横浜市で開催する「第二四回全国女性消防操法大会」に秋田県代表として出場する、秋田市女性消防隊には是非入賞を目標にして頑張っていたきたい



等を発表しました。
九月一日には「第五五回秋田県消防操法大会」を開催しました。
今年、全国大会への出場を決める秋田県代表を選考する大会ということで、選手は勿論のこと、応援団も大いに盛り上がりました。
一〇月一九日、「第二六回全国消防操法大会」が富山市において開催され、本県代表としてポンプ車操法部の出場した大潟村消防団(七期連続出場)は残念ながら入賞には届きませんが、大いに健闘しました。一番員から三番員まで二〇代の選手を揃え、将来も有望なチームであり、ますますの奮闘に期待しております。

平成三十年全国統一防火標語
忘れてない?
サイフにスマホに
火の確認

と想います。
また、一月九日には滋賀県大津市において「第二四回全国女性消防団員活性化滋賀大会」が開催され、本県からも二二名参加しました。今後の活動に繋げていく大変有意義な大会でありました。
さて、本県における昨年の災害発生状況ではありますが、火災は皆様の懸命なるご尽力にも関わらず、多くの方が尊い命を失っております。
更には、大雨・暴風等の自然災害により、住家や農作物等に被害が発生しました。
こうした中であって、安心・安全に寄せる地域住民の期待はより大きくなっており、私たち消防人は、その負託に応えられるよう、なお一層の精進を重ねていく必要があると、決意を新たにしているところであります。
社会構造の変化等に伴い、消防団員の確保も大変難しい問題となっておりますが、若手の消防団員は将来に向けて貴重な存在であり、確保対策とともに、育成事業も併せて実施する必要がありますと思われることから、昨年、当協会の新しい事業として、「若手消防団員を対象とした行事開催」準備委員会を設置しました。



この委員会の目的は、若手の団員を対象とした行事を開催し、県内各消防団の活性化を図るとともに、消防団員の確保対策にも繋げようとするものであります。本年度から本格的に検討を重ねてまいりますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、県民の皆様並びに消防関係者のご健勝と、本年が厄災のない良い年でありますようお願い申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

平成三十一年の 新春を迎えて



秋田県知事

佐竹 敬久



平成三十一年の輝かしい新春を迎え、県内消防関係者の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様には、平素から消防活動に精励されておりますことに対し、深く敬意を表します。

さて、昨年の国内での主な災害を振り返りますと、「平成三〇年七月豪雨及び台風第二二号」では、死者、行方不明者を合わせて二三二名が犠牲になったほか、多くの住家等

の建物に被害が発生するなど、記録的な災害となりました。

また、九月には、歴代三位の伊勢湾台風に匹敵する強い勢力のまま上陸した「台風第二一号」や、震度七を記録した「北海道胆振東部地震」の発生などにより、大きな被害が生じました。改めて心からお見舞い申し上げます。

本県においても、昨年五月の記録的な豪雨によって、住家の浸水や道路の損壊のほか、農作物・農業用施設等に多大な被害が生じました。幸いにも人的被害がなかったことは、出動した一、七三二人の消防団員の皆様による迅速な避難誘導や救助活動の賜物であり、深く感謝申し上げます。

県としましては、このような自然災害や火災など様々な危機事案から県民の生命と財産を守り、安心して安全に暮らせる社会を維持していくため、各市町村、消防本部との連携をより強固にし、消防・防災体制や救急救命体制の更なる向上をはじめ、消防団や自主防災組織の強化など、総合的な防災力の向上に取り組んでまいります。

本年二月には、「全国消防団意見発表会」が東京都において開催され、全国から選抜された一一名の発表者のひとりとして、本県の消防団員が消防団の意義や重要性をアピール

ルすることになっていきます。本県はもとより、全国の消防団の活性化に向けた素晴らしい発表となるよう、御期待しております。

結びに、本年が火災や災害のない平穏な一年でありますことと、皆様方の一層の御健勝、御活躍を祈念いたします。年頭のあいさつといたします。

新年の 御挨拶



秋田県議会議長

鶴田 有司



平成三十一年の輝かしい新春を迎え、消防関係者の皆様にご挨拶を申し上げます。

皆様には、

平日頃より防災の最前線にあって、県民の生命と財産を守るため、昼夜の別なく献身的に御尽力いただいていることに対し、県議会を代表して心から敬意を表するとともに深く感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、五月の記録的な大雨や台風二二号により河川の氾濫や家屋の浸水、道路の損壊などの甚大な被害が発生いたしました。幸いにも、人的な被害がなく、これもひとえに、消防団や自主防災組

織などの適切な避難誘導や救助活動など、日頃からの備えと地域の共助の力によるものと感謝申し上げます。

一方、国内を見ても、西日本を中心に大きな被害が発生した平成三〇年七月豪雨や平成三〇年北海道胆振東部地震など、記録的、突発的な災害により甚大な被害が発生しております。その爪痕は未だ深く残っており、一刻も早い復旧、復興が望まれるところであります。

災害は年を追うごとに大規模化・頻発化しており、安全・安心の担い手として、消防の果たす役割はますます大きくなってまいります。消防職員や消防団員を中心に、それぞれの地域が主体となった消防防災体制をより一層強化する必要があるが、人口減少社会にあって、消防団員の確保は一層困難となってきました。このため、基本団員の確保とあわせて、大規模災害時に限定して出動する「大規模災害団員」の積極的な導入も含めた機能別団員制度を大いに活用することによって地域防災力の充実強化に努められることを期待いたします。

皆様におかれましては、地域住民が安心して暮らせる安全な地域づくりのため、一層の御精進と御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、皆様のますますの御健勝と、本年が災害のない平穏な年で

ありますことを御祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。

年頭の辞

消防庁長官

黒田 武一郎



平成三十一年の新春を迎えるに当たり、全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭

の御挨拶を申し上げます。皆様方には、平素から消防防災活動や消防関係団体業務などに御尽力いただき、ありがとうございます。深く感謝申し上げます。

昨年、地震や集中豪雨による自然災害が多発し、警戒活動中の消防団員の方をはじめ、多くの方々が犠牲になりました。

また、群馬県で発生した消防防災ヘリコプター墜落事故により、九名の方々の尊い命が失われたことは痛恨の極みであります。

お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

平成を振り返ってみますと、平成七年の阪神・淡路大震災を受けた災害対策法制の見直し、平成一五年の

緊急消防援助隊の法律上の位置づけ、平成二三年の東日本大震災を受けた相互援助の強化や住民の円滑かつ安全な避難の確保など、我が国の消防防災行政は、回避できない自然災害から被害を最小限にできるよう、減災への不断の努力を続けてまいりました。

尊い犠牲となりました先人のご遺志にこたえるためにも、今後発生が危惧される南海トラフ地震や首都直下型地震等の大規模災害に備え、緊急消防援助隊や地域防災力の中核となる消防団及び自主防災組織の更なる充実強化、火災予防対策の推進など、一層の推進に取り組んでまいります。

あわせて、新しい年を迎えて始まるG20大阪サミットや2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会などの大規模イベント開催時における安心・安全対策に取り組み、引き続き万全な消防・救急体制を整えてまいります。

皆様方におかれましては、我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の益々の御健勝と御発展を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

「変化」のなか、さらなる 充実発展をめざす日本消防



公益財団法人日本消防協会
会長 秋本 敏文



明けましておめでとうございます。秋田県消防の皆様には、地域の安全のため日夜ご尽力頂いております。深く感謝申し上げます。

最近の災害は、数が多いだけでなく、様子が変わっているように思われてなりません。台風といえば、以前は九州上陸が通常パターンでしたが、最近では迷い子の台風があったり、北海道東北上陸があったりします。秋田県でも昨年、一昨年と、大雨による河川の氾濫により、甚大な被害が発生しました。私は、これまでも「全国、いつでも、どこでも、何でもある位に思っていないければならない」と申しあげていたのですが、その実感がますます強くなったように思われます。

そのように環境が大きく変化するなかで、消防はこれに対応しながら使命を果たしていかなければなりません。日本消防協会では、昨年三月、自治体制度七〇周年を契機とし

て、「変化への対応」を中心とするシンポジウムを開催し、標記のタイトルは多岐にわたっていますが、今年も私たちはその実現をめざして多方面の努力を重ねてまいります。

全国的な、広域的な取組みが必要なくとも勿論ありますが、私は、「防災の原点は地域」ということを思いながら、平成二五年制定の「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の趣旨をいかして、地域の皆さんの総力結集のもと、地域のさまざまな状況に応じつつ、その地域にとって必要な情報の収集、的確な判断、そして迅速な行動を実行するようにならなければなりません。

新日本消防会館の建設を進めていますが、新会館は文字通り日本消防の総合的な中核拠点であり、また市町村自治の一層の発展に寄与できるものにならなければならないと考えております。

今年が無事平穏なよい年でありますよう心からお祈り申しあげ、秋田県消防の皆様のご健勝ご多幸をお祈り申しあげて新年のごあいさつとさせていただきます。



年頭の ごあいさつ

秋田県市長会会長
秋田市長
穂積 志



全国の消防関係者の皆様にごあいさつを申し上げます。

皆様におかれましては、地域において人々の命を守るため、日々鍛錬を重ねておられますことに心から敬意を表します。

さて、昨年は、二月五日から八日にかけて発生した「福井豪雪」、六月一八日の「大阪北部地震」、六月下旬から七月上旬にかけての「平成三〇年七月豪雨」、さらには、九月六日に発生した「北海道胆振東部地震」など、災害が多い一年でありました。

豪雪の際には交通障害の怖さ、豪雨の際には早期の避難の必要性、そして地震の際にはブロック塀の倒壊や火山灰土壌の土砂崩れ、埋め立て土地の液化化など、災害のたびに新たな教訓を



得ながら、制度の改善・改正や市民に対する啓発などに努めているところではあります。それでも想定外の事態が次々に発生しております。

こうした状況の中、秋田県においては、北海道胆振東部地震が早朝三時に発生した際、わずか三時間後の六時には秋田港からフェリーで緊急消防援助隊を派遣し、早期の救助活動にあたることができました。これは、関係者の皆様が平時から警戒を怠らず、準備を進めてきた成果であると大変誇らしく感じているところであります。

頻発する災害に対して、私ども市長会としても、災害発生直後の全国レベルの相互支援体制や市民生活の速やかな復興支援体制の構築など、具体的な取組を進めているところであります。消防関係者の皆様におかれましては、市民の安全・安心な生活を守るため、引き続き、日々の防災活動や地域の防災意識の高揚などにお力添えを賜りますようお願いいたします。



結びに、消防職員ならびに消防団員の皆様、そして関係各位のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。

平成三十一年の 新春を迎えて

秋田県消防長会
会長 佐藤 好幸



平成三十一年の輝かしい新春を迎え、県内の消防関係者の皆様に謹んで年頭の

ごあいさつを申し上げます。皆様には、日頃から防災の最前線に立ち、火災をはじめとする各種災害から地域住民の生命、身体、財産を守るため、日夜献身的にご尽力されておられますことに、改めまして心から感謝と敬意を表します。

また昨年の消防長会各種事業におきましては、開催地の消防関係者の皆様から特段のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年一月の草津白根山の噴火、二月の日本海側を中心とした大雪や四月の大分県中津市での土砂災害、その後立て続けに上陸した台風や七月の豪雨により、多くの尊い人命と貴重な財産が失われるなど、改めて自然災害の頻発国であることをご痛感させられました。

消防では管轄地域はもちろん県内の広域応援や、時には全国各地への対応も期待されており、広域災害対応能力の一層の向上を強く感じたと

ところであります。

このような中、九月六日に発生し、死者四名、重軽傷者七四九名、被害住宅一〇、一三四棟にのぼる大災害となった北海道胆振東部地震では、発災直後に秋田県緊急消防援助隊、統合機動部隊を震源地の厚真町へ派遣し、早期に救助活動を開始するなど、県内消防の連携の強さを示すことができたものと考えております。

今後、本県においては、人口減少や超高齢化、生活様式の多様化など、社会環境の変化に応じたきめ細やかな対応が求められており、地域社会における消防の役割はさらに増大してまいります。

従いまして、消防、防災のエキスパートとして、防災対応力の高度かつ専門化を図るべく、地域防災力の中核である消防団や警察、自衛隊、医療との連携をより強固にするなど、様々な取り組みを加速してまいりたいと考えております。



全国大会出場決定

結びに、皆様方の益々のご健勝とご多幸、そして本年が平穏な一年であることを祈念いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

女性消防団員の活躍について討議

平成三〇年度 全県消防団長研修会



平成三〇年度全県消防団長研修会が二月七日(金)午後二時から、秋田市中通「イヤタカ」で消防団長など消防関係者約七〇名が参加し、開催されました。

研修会では、五城目町消防本部伊藤豊消防長による女性消防団員入団促進事例の発表や東京都赤羽消防団副団長小澤浩子氏の講演、そして「女性消防団員の活躍」をテーマに意見交換を行いました。

女性消防団員入団促進事例

「女性消防団員導入に向けた取組」

発表者：五城目町消防本部
消防長 伊藤 豊



伊藤消防長

講演

『今こそ女性の力！』

～消防団活動の充実強化に向けて～

講師：東京都赤羽消防団

副団長 小澤 浩子氏



講師の小澤氏

講演の内容

一 消防団新時代へ ～自治体 消防七〇周年節目の年～

- (1) 東日本大震災後に あらゆる角度から見直された消防団
 - (2) 新法の成立平成二五年一二月
 - (3) 社会環境の変化
 - (4) 災害の世紀の中で ～世界的に強大化する災害激甚化する被害～
 - (5) 消防団への期待の変化
- ##### 二 消防団の現況
- (1) 消防団の概況
 - (2) 相変わらずの消防団の課題
 - (3) 秋田県の状態を振り返ろう

三 今こそ女性の力の活用を

- (1) 女性が輝く社会への期待
女性活躍推進法の施行(二八年四月)
- (2) 防災分野における「男女共同参画」の推進
- (3) 女性消防団員の登場
- (4) 女性消防団員の活動
- (5) 女性団員の入団を阻む壁
～不安や戸惑い・勘違い～
- (6) 女性消防団員の課題
- (7) 女性消防団員の成長

四 新しい時代の消防団活動

意見交換

テーマ『女性消防団員の活躍』

進行：秋田県総務部総合防災課
副主幹 佐藤 良和



佐藤副主幹(左)

意見交換の内容

一 女性消防団員の導入に向けた取組や入団に関する取組についての報告

《東成瀬村、北秋田市、大館市、湯沢市の各消防団長》

二 県内の女性消防団員の具体的な活動状況についての報告

《仙北市、由利本荘市、湯上市の各消防団長》

三 そのほか、女性団員の活動としては何をすべきか、女性団員をまとめるためにはどうすべきか、入団時の嫁・姑の問題について、小澤講師からアドバイスをいただきました。

軍司湯沢市団長



伊藤湯上市団長

「臨時理事会」を開催

二月七日(金)、午後一時からイヤタカ(秋田市中通)において、臨時理事会を開催しました。

継続案件となっておりました、秋田県消防操法大会の小型ポンプ操法とポンプ車操法の部で優勝した消防団に対して、「持ち廻りの優勝杯」を授与し、各選手を表彰することに

ついでには、平成三十一年度の大会から実施することに決定しました。

なお、併せて

「規律訓練」の披露も行うこととし、三十一一年一月末まで出場隊を募ることを決議しました。



雪害対策

Ⅱ 屋根の雪下ろしのチェックポイントⅡ

- 一 作業は、家族、隣近所にも声かけて二人以上で行いましょう。
- 二 命綱を確実に付け、滑りにくい履き物、ヘルメットを着用しましょう。
- 三 携帯電話も忘れずに携帯しましょう。
- 四 屋根にかけたハシゴは、ふらつかないように、しっかりと固定しましょう。
- 五 屋根下に人はいませんか？ 特にお年寄りや子どもに十分注意しながら作業しましょう。
- 六 雪を下ろすとき、軒先から下ろしていませんか？ 非常に危険です。上の方から下ろしていきましょう。

旗ヶケン 旗ヶケン 旗ヶケン
 旗ヶケン 旗ヶケン 旗ヶケン
 旗ヶケン 旗ヶケン 旗ヶケン
 旗ヶケン 旗ヶケン 旗ヶケン

寺田染工場

横手市清川町 ☎32-0416

- 七 建物の周りに雪を残して、雪下ろしをしましょう。
 - 八 晴れの日は屋根の雪がゆるんでいきます。
 - 九 晴れの日はほど要注意です。
 - 十 低い屋根でも油断は禁物です。雪下ろし開始直後と疲れたころは特に慎重に作業しましょう。
- Ⅱ 除雪機使用時のチェックポイントⅡ
- 一 マフラーなど機械に巻き込まれやすい服装で、作業はしないで下さい。
 - 二 除雪機に詰まった雪を取り除く際、ケガの原因となるので、確実にエンジンを切ってから雪を取り除いて下さい。

トーハツ消防ポンプ
 モリタ自動車ポンプ
 消防被服全般
 秋田県代理店

総合防災設備センター

株式会社 高義商会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ
 モリタ自動車ポンプ
 エットホース
 消防被服全般
 消防被服全般
 消防被服全般
 消防被服全般
 消防被服全般

〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32 TEL(0183)(42)2125
 〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588



株式会社 夕力ギ

秋田県横手市寿町1番28号
 TEL (0182)(32)3880
 FAX (0182)(32)0839

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | キンパイホース
 トーハツポンプ | シバウラポンプ
 各種消防機械器具 | 各種消火器
 消防設備保守点検

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>
 E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

消防団員入団促進 キャンペーン実施中

一月から三月まで

消防団・消防団員とは

消防団は、消防本部や消防署と同様に市町村の消防機関の一つです。

消防団員は、本業を持ちながらも「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づいて、地域の安全・安心を確保するために活動する非常勤特別職の地方公務員です。

消防団員数は年々減少

本県の消防団員数は、昭和三十一年には三六、〇〇〇人が在籍していましたが、その後、過疎化・少子高齢化の進行、産業・就業構造の変化等に伴い、年々減少し続け、平成三〇年には半数を割り込み一六、六五三人となっており、地域における消防防災力の低下が懸念されています。

入団促進重点推進事項

(一) 被雇用者の入団促進

現在の消防団員の七〇%超が、会社員などの被雇用者です。消防団活動には事業所の協力が不可欠となっており、より一層、事業所との連携強化を図って、従業員の入団促進を進めていく必要があります。

(二) 女性の入団促進

消防団員数が減少している中、女性消防団員は増加傾向にあり、本県の女性消防団員数は、平成三〇年四月一日現在、三八四名の方が在籍しています。女性消防団員の活動は、火災予防広報、一般家庭や高齢者宅への防火訪問、応急手当の普及啓発活動など多岐にわたっています。

(三) 大学生等の入団促進

消防団員の高齢化が進む中、若年層の消防団員確保が大きな課題となっています。大学生等(専門学校生

を含む)の若い力を、消防団活動で発揮していただくことは大変有意義なことです。本県では、七七人(平成三〇年四月一日現在)の大学生等が消防団で活躍しています。

多くの方の消防団入団を期待

消防団は、地域防災の中核的な存在で、地域の安全・安心を確保するために大変重要な組織です。是非、多くの皆様に消防団活動に対する理解を深めていただき、一人でも多くの方に消防団活動に参加いただけることを期待しています。

地域の一員として。
もしもの時のヒーローに。

街を守ろう。
めざめよヒーロー!

街を元えることは、企業にとって大切なことです。

株式会社 拓誠 社会貢献部 関谷 克浩
株式会社 工事部 保員 阿部 輝夫
〒101-8501 東京都千代田区十日町方面 第一分団

企業のみならずへ

消防団員募集

FPMA 総務省消防庁
Fire and Disaster Management Agency

モリタ消防ポンプ
桜ホース・ソフト吸管
各種消火器

シバラポンプ
消防被服一式
消防機器一式

株式会社 能代消防センター
株式会社 協立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)
猿田興業ビル3F FAX 018 (824) 3651

